

タイトル:平成 23(2011)年度 研究セミナー

日程:平成 23 年 12 月 19 日(月)～21 日(水)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「1964 年 - 1998 年のイスラエル国立公園政策における考古遺跡の遺産化」

岡田 真弓(慶應義塾大学大学院)

私は、イスラエルをフィールドとし、歴史学の中でも考古学を主要なディシプリンに据えて研究を行っているため、当初セミナーへの参加規程に当てはまるのか不安でした。しかし、セミナーを終えて本セミナーは、中東に関する博士論文を執筆する上で意義深いものであるという感想を持ちました。中東研究の若手が集まり、それぞれの博士論文の核を成す研究を 2 時間という十分な時間をかけてAA研の先生方や参加者と議論できる本セミナーは、中東やイスラームをテーマに博士論文を書こうとする学生にとって、非常に大事な機会だと思うので是非今後とも継続していただきたいと思います。

個人的には、発表後に参加者や先生方が非常に(本当に非常に)熱心にご意見を頂けたことがとても参考になりました。ちょうど自分の研究の方向性に関して迷いを感じていた時期でしたが、セミナー中だけでなく懇談会などでAA研の諸先生方から色々教示いただき、私の中での博士論文の位置づけを再確認することができました。

以下、3 点を中心に私が参加して感じたメリットを書きたいと思います。

1. 研究発表 1 時間について

私の研究発表 1 時間の構成は、約 30 分で(1)研究の背景、(2)先行研究、(3)先行研究における問題点、問題提起、後半の 30 分で(4)分析、(5)考察、(6)今後の展望を行いました。(4)と(5)の部分は、博士論文で主軸となる章の一つ(未完成であり、一番問題が残っている部分)を取り上げました。発表に向けての準備が博士論文の梗概作成のようになり、自分が取り組んでいる個々の研究が博士論文の中で一体どのような位置づけであるのかを再確認することができました。(今回扱った分析の)執筆前段階で、博士論文における本研究の位置づけを再度整理することが出来たので、セミナー中に指摘していただいたコメントや問題点を博士論文を仕上げていく際に、どのように活かしていけばよいかが見えてきたと思います。

2. 発表後 1 時間の議論について

1 時間の研究発表後に 1 時間の質疑応答があり、この時間は私にとって非常に貴重なものでありました。参加者が歴史学、国際政治学、文化人類学など様々な学問分野の方で構成されていたので、質問自体からも学ぶところが多かったと思います。また、発表の目的は博士論文の主軸となる分析・考察の一つを取り上げ、その分析・考察が妥当なものであるか、また妥当でないのであればどのように修正すべきかを学ぶことでありました。このような試験的な発表を行わせていただいた結果、参加者やAA研の先生方から多くの問題点や改善点を指摘していただき、このことは今後の博士論文の再構成および執筆において非常に重要な指針となると思います。今回の発表に関する部分はまだ文章化する前だったので、博士論文の全体像と比較してセミナーで頂いた建設的な意見を参考にもう一度再考したいと思います。

います。また、希望すれば自分の発表とその後の質疑応答の音声データを頂けるのもとても有難いです。

3. 参加者の研究発表へのコミットメントについて

今回のセミナーは、様々な学問分野の方の研究発表を聞くことができました。しかし、共通しているのは博士論文として仕上げていくということであり、各研究で用いられていた手法や視座などは参考になりました。また、AA研の先生方のコメント一つ一つも今後の研究において重要な示唆を含んでいるものが多く、3日間メモを取りっぱなしであったように思います。当初、全く異なる学問分野の研究発表に対してどれだけ自分がコミットメントできるか不安でしたが、予め各発表の要旨が配布されていたこと、さらに発表者の方々の研究自体が非常に興味深く、そのような不安は全く不要でした。また、セミナーの雰囲気そのものは片苦しいものでなく、門外漢が質問をしてもきちんと受け止めてくださった発表者の方やまとめてくださった先生方の円滑な運営のおかげであると思います。

末筆になりましたが、セミナーご担当の先生方、事務局の千葉様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。